

美しく生きる

保内中学校
校長室だより第10号
平成30年7月13日
文責 鎌田 宏和

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます

7月6日午前に降り始めた雨は、翌朝にかけて降り続き、未曾有の災害を引き起こしました。この災害により被害を被った保護者の皆様及び関係の方々、また二次災害の発生に気の休まらない日々をお過ごしの皆様には心よりお見舞い申し上げます。

学校は、6日（金）が2年生のジョブチャレンジ（職場体験）最終日で、3年生は、5・6時間目に性教育講座を実施する予定でした。10時37分、八幡浜市内に大雨（土砂災害）警報が発表され、職場体験は昼で打ち切ることになりました。2年生は、急遽手配した教職員の車でそれぞれの職場を後にしましたが、お世話になった方々に十分なお礼を伝えられないまま体験を終了してしまったのではと心残りです。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

そして、5時間目が始まったころ、喜木川は今まで見たこともない水量の水がうねるように流れており、道路の冠水は時間の問題と思われました。2名の外部講師をお迎えして実施していた3年生の性教育講座も5時間目の途中で中止し、14時00分に一斉下校の判断をしました。急な対応で保護者の皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。常日頃、非常変災については、様々な想定をし、最善の対応を心掛けているつもりでしたが、次から次に起こる想定外の出来事に、対応の難しさを痛感いたしました。

現在、日土地域の一部の道路と須川地域の一部の山で復旧対策が講じられています。一学期もあと1週間でいよいよ夏休みとなります。交通事故や安全衛生面はもちろん、自然災害にも十分注意して、安心・安全な夏休みが過ごせることを願っております。

〈「明日の日を」から〉

今日はあの大雨があってから初めての登校でした。教室のすみの方には、変な大きなシミがあり、しばらくすると1年生のだれか一人が来ていないと耳に入ったので、薄々、自分たちはあの時危ない状態だったんだなと感じました。

愛媛県だけでも20何人もの方が亡くなっていてショックでした。これからは、このことを教訓にして、日々の生活に生かしていきたいです。

（1年B組 大野陽さん）



使わなくなった「ランドセル」ありませんか

この度の豪雨災害で、他の市町において家財道具等を消失した家庭が多くあります。その中で、ランドセルが流されて困っている小学生が多数おり、なんとかならないものだろうかとの相談を受けました。

つきましては、ご家庭に使わなくなったランドセルがあり、提供してもかまわないという方がいらっしゃいましたら、学級担任を通じてご一報いただければありがたいです。よろしくお願ひします。



人と生きるということ ～「人と生きる子ども」を育てるために～

私たちは、保育所等の「人生初めての集団生活の場」に子どもを送り出した瞬間から、子どもが一人歩きを始めたことを知らなければなりません。また、そのことを大人同士

がしっかり認め合い、集団の中で育つ子どもを大人のネットワークで支えていかなければなりません。そして、子どもの世界で起こる様々な出来事を、「大人のつながりで冷静に見守っていく」のが親というものであると思うのです。

私事で恐縮ですが、今から25年ほど前、長男を妻の実家の伊方町の保育所に入所させました。保育所の玄関で泣きじゃくって動かなくなった3歳の長男を、先生が手を引いてあやすようにして奥の保育室に連れて行くとき、大泣きしてこちらを振り返り訴えるように見つめる長男を可哀そうに思いつつも、「これから、いろんな人とかかわりながら成長するんぞ。がんばれ。」と心の中で言葉を送ったのを覚えています。保護者の皆さんにも同様の経験がおりと思います。

子どもたちは、子どもたち同士の成長の中でたくさんのかんことを学びます。喜びや悲しみ、感動や苦悩、満足と挫折、希望と失望・・・こうした様々な感情を抱き、経験を重ねながら子どもたちは強く正しく生きるようになります。また、生きるようにしなくてははいけません。この時、私たち大人は、苦境にある子どもたちの様子に困惑したりうろたえたりすることなく、しっかり支えてやらなければなりません。その根底にあるのは、我が子への愛情と同様、社会の中で人と共に育とうとする子どもたち一人一人の自立を温かくも厳しく見守る眼差しではないでしょうか。

「親」という字の成り立ちが、『木』の上に『立』って、『見』守ること」と、昔どなたかから聞いたことがあります。子どもを、少し離れたところから見守り、機に応じてそっと言葉かけしてやるのが、成長の糧となるのではないかと思うのです。

少し話は変わりますが、人は生まれながらに「善」である（性善説）か「悪」である（性悪説）かという議論が時になされます。

「人が良い習慣を身に付けるには、努力しなければならない。人は元来怠け者なのだ。従って人は本来『悪』であり、だから教育が必要なのだ」とする「性悪説」。

一方、「人は心の根底に良く思われたい、良く生きたいという性をもっている。不幸にある人を心配したり、命の危機に直面している人を見て胸が苦しくなる。戦隊ヒーローごっこをする子どもは決まって正義の味方をしたと思っている。従って人は本来『善』であり、その善を信じて生きていくものなのだ」というのが「性善説」です。

私は、どちらの説が本当であるかは別にして、人が生きるということは、人に生かされていることに他ならないと思うのです。他者を非難したり責任を追及したりする関係の中では健全な成長は望めません。

以前、徳島県で行われたPTA研究大会のシンポジウムで、当時の松山市小中学校PTA連合会顧問の中村和憲氏が、次のようなお話をされていました。

このPTA活動の中で、利害関係の全くないこの世界でお互いにつながりあっているのは、ただ子どもたちの笑顔のために子どもたちの未来のためにという、そういう思いでつながりあった仲間との出会いは、本当に人生の中でありがたかったと思っております。

その中で一番自分自身が気が付いたことは、自分は何も知らないということでした。本当に多くの仲間が子どもたちのために、それぞれの持ち場・持ち場で真心を尽くされているということを知って、その思いを年々深くしていった11年であつたと思っております。大切なことは、日常生活にあること、そして当たり前のことに本当に感謝の気持ちをもつこと、いろんなことを人のつながりの中からたくさん気づき教えていただいたと感謝しています。（抜粋）

人が人と生きる時、「わかっていること」よりも「わかってないこと」、「知っていること」よりも「知らないこと」が多い世の中を、いつも感謝の心や謙虚な姿勢を忘れてはならないと思うのです。